職工側漸く軟化す

實行委員修正案を提出して跳付られ

更に妥協案を作成す

『漸次開場の方針』

數日間の休業に依り職工の大部分は既に軟化の兆明かなるあり且つ製淀所に於ても遠からざる内に作業開始の意あるを實行委員連の報告に依て知悉したれば幾分安堵したるものか二十七日夜の八幡市中は小雨の闇係もありたれど殆ど平常に復り前日迄漂ひし不安の氣も大に薄らぎたり（八幡電話）

修正要求條項

勞友、友愛兩會及び實行委員等は二十六日午後八時議會解散の新聞號外を見て茲に斷然たる態度を決定する事となり同夜直に幹部會を開き今後の態度及び提出せる五箇條の條件の修正を爲し即ち要求中第一項、第五項は議會の解散により一樓の望を失ひ和談成立せざるより之れに對しては政府の責任支出として四月一日より實施して貰ひ度事第三項、時間問題は申合會、臨時會を開き四月一日より十時間制を採用され度き事第四項、住宅費補助は長官は金額を以て支給不可能の旨を述べられたるより今後製鐵所に於て一箇年一千戸以上の官舍を新築して貰ひ度き事の修正を爲し更に追加條件として今回製鐵所が無期休業を發表掲示したる日より休業中の日給及加給手當を全部支拂はれ度き事

新要求も

跳付らる

總て六箇條を議決し右條件を提げて長官の意嚮を確むる事と爲し二十七日午前一先づ散會したり

右に對し石野國粹會小倉支部長伊藤同下關支部長外四名は十七日午後新要求を提して白仁長官と會見したるが長官は職工側實行委員に回答したると同條の事を繰返して一歩も譲らず只共議解を求めんとするのみにて同會長は折角の調停も全然水泡に歸し北九州に於ける所謂騒擾の面目も一掃りもなく一蹴し去られたり、然し同會長は「此の上は一應長官の意見のある所を聽き行委員に告げて反省を求むるの外なし」とて同三時引揚げたり

譲歩的妥協案

國粹會より長官との會見顛末の報告を受けたる職工側實行委員は長官の態度強硬なるより急遽二十七日午後六時より友愛會支部に協議會を開き最後の善後策を協議せるが議論百出、中には泣くものあり結局一種の譲歩的妥協案を作成して國粹會の手を經て長官の下に交渉することとなり實行委員は同夜之を議して國粹會を訪問せり

一出動日を全部同一にする事

一休業日數間は現日給を支給する事

一二月分の割増に關係なき事

右三條項共容れらるゝときは實行委員は之に滿足し即日一般職工の就業を勸誘す

東京の運動

東京友愛會本部では二十七日朝白仁長官宛に解決激勵の電報を打ち又目下上京中の八幡勞友會幹部淺原、嶺脇の兩氏は鈴木友愛會長松岡理事と共に同日午後三時農商務省に出頭大塚次官小阪政務官に面會し解決につき懇述する處ありその足にて内務省に川村警保局長を訪問、國粹會の檄文につき種々陳情したり（此項東京電話）

『諸君の期待に副ん』

同志會實員と長官會見

同志會にては二十六日幹部會の決議に基き昨日清水中將の三菱逃委員は二十七日午後二時白仁長官を

來るべき大

各

政友本部

喝采する

やけに拍手

「必勝を期せよ」解散後の各黨は早速下にそれ〳〵陣立に取掛つた來る納稅制限選擧の最後かゞ肇さるを切つて落し各黨本部の緊張振り

之の政友本部では之の本部は二十七日朝十時から前代議士總會開會の首相「絶對多數を期す」と一見得を切つて

公爵夫人の面へ拳銃を